



ボーイスカウト東京連盟
あすなる地区広報誌
第12号

2016年12月 3日
組織拡充委員会

地区トレーニングチームのメンバー委嘱

9月29日(木)、地区協議会が西荻・勤福会館で開催され、地区トレーニングチームのメンバーが委嘱されました。

トレーニングチームは、ボーイスカウト講習会、スカウトキャンプ研修会の運営など、地区トレーニング委員会の訓練業務にあたり、ディレクターのほか、副ディレクター、指導スタッフで構成され、任期は2年間です。

これにより、地区トレーニングチームのメンバーは表の通りとなります。



あすなる地区 トレーニングチーム
(就任期間：平成28年9月22日～平成30年3月31日)

氏名	所属	資格	団役務	地区役務
ディレクター				
村山 正己	杉4	A L T	団委員	トレーニング委員長
副ディレクター				
佐藤 武信	杉11	L T	団委員長	地区委員長
平方 敏道	杉6	L T	団委員長	
椎木 誠一	杉13	A L T	副団委員長	団担当コミッショナー
岸本 隆一	杉6	A L T	R S 隊長	トレーニング副委員長
指導スタッフ				
沼上 幸一	中8	東連要員	C S 隊長	団担当コミッショナー
小峯 和明	杉4	東連要員	V S 副長	
嶋崎 正男	杉5	東連要員	B V S 隊長	副コミッショナー
別役 重久	杉8	東連要員	団委員	
下地 俊一	杉11	東連要員	V S 隊長	地区コミッショナー
飯沼 利雄	杉12	東連要員	V S 隊長	副コミッショナー
斉藤 秀夫	中8	実修所	B V S 副長	
沼上 晶子	中8	実修所	B V S 副長	
伊澤 聡史	杉4	実修所	V S 隊長	
大原 俊	杉5	実修所	C S 隊長	副コミッショナー
浅原 房夫	杉9	実修所	団委員長	
高橋 治	杉11	実修所	B S 隊長	
島田 雅彦	中5	研修所	B S 隊長	野営行事委員長
綾田 雄公	中8	研修所	B V S 隊長	
清田 義隆	中8	研修所	V S 隊長	
小原 翔	杉13	研修所	B S 隊長	副コミッショナー

※ L T : リーダートレーナー、A L T : 副リーダートレーナー

菊スカウト章、隼スカウト章の受章

11月24日(木)、あんさんぶる荻窪で開催された地区委員会に先立ち、佐藤地区委員長より菊スカウト章が杉並8団の塩澤風太さん、島津裕章さんに授与されました。

また、隼スカウト章が杉並12団の平岡拓実さん、向塾航太さんに授与されました。



秋川で指導者研修セミナー

11月26日（土）～27日（日）、あきる野市五日市にある杉並区秋川研修室で、「あすなる地区指導者研修セミナー」が開催され、23名の方々が参加しました。

26日は開会セレモニーのあと、杉並区児童青少年課藤山課長の「杉並区の児童館運営とその背景」の講演については、ボーイスカウト世代の児童の人口の動きや青少年対策と関連した話があり、「いじめ問題への学校の組織的な対応」については、いかに認知して対応するかについての話がありました。

また、ワイドゲームでは、指定された座標のポイントを地図上に記入し、3つの班に分かれて、地図とコンパスを使用して、紅葉した木々に囲まれた金剛の滝や小峰公園などを巡り、橋の長さを歩測するなど、各班ともゲームの優勝を目指し、夕闇になるまで熱心に取り組みました。

翌日は下地コミッショナーより「セーフ・フロム・ハーム (Safe From Harm) 」とは「教育において最も安全で安心できる環境を提供するもの」であること、いじめなど6種類の危害があること、ガイドラインや活動中の注意などについて話がありました。

最後に広瀬組織拡充委員長より、毎月開催される東京連盟組織拡充委員会において発表される「各地区の組織拡充の取り組み事例」について、研修、地区行事、ホームページ、広報誌などのテーマ毎に、各地区が組織拡充のためにどのような施策を展開しているかが紹介されました。



庭で開会セレモニー



参加者の記念撮影



藤山課長の講演



ハイキング順決めのジャンケン



金剛の滝までハイク



スカウトズオウンサービス



モーニングゲーム



下地コミッショナーより修了証の授与

中野区エリアのカブ隊合同隊集会

中野8団カブ隊長 沼上幸一

11月27日の午後、新井薬師公園に中野区内の団のカブ隊が集まり、合同隊集会を行いました。

中野区エリアのカブ隊は人数の少ない団が多く、自団だけでの活動では組集会と隊集会の区別がなかなかつけにくいことが悩みでした。このため、ラウンドテーブルを通じて仲良くなった隊長達の呼びかけにより、中野5団、7団、8団、11団の4こ団が集まりました。

9月からラウンドテーブルの終了後などに集まって打ち合わせを行い、隊集会の目的、テーマなどを決め、実施計画を作成しました。隊集会のテーマは「なかののなかの探検隊」で、各団で事前に1、2回の組集会を行い、自分たちの団の活動地域の探検を行い、その結果を地図にまとめることになりました。そして、隊集会では、各団の作成した地図の発表を行うことと、探検にちなんだゲームを行うこととしました。

隊集会当日は中野5団の大屋隊長の「バック・バック・バック」の掛け声から始まり、大輪になってのカブコールと、しっかりとした開会セレモニーができました。

探検地図の発表は、見慣れない人たちに前にみな緊張気味で、少々ぎこちなかったですが、視点が団ごとに異なりそれぞれに面白い地図が発表されました。その地図をつなげると、中野通りが北から南まで1本につながりました。

発表会の後は、4こ団のスカウトを3組に分けて臨時の1組、2組、3組を作り、「探検」をテーマにして、各隊の指導者たちが工夫を凝らした4種類のゲームを行いました。

小雨交じりで開催が危ぶまれた天気でしたが、予定通りすべてのプログラムを行うことができ、新井薬師公園内では、制服を着たスカウト達の元気な声が響きわたっていました。臨時の組にもかかわらず、スカウト達はすぐに仲良くなり、組内で協力してゲームの課題にチャレンジしていました。

指導者達は、普段は「少人数だから…」と手を抜きがちなことをきちんと行うことで、自分たちの指導方法を見つめ直すきっかけになったと思います。4こ団のカブスカウトが集まっても、標準隊の人数規模には達しませんが、それでも、普段できない規模での協力や競い合いの体験はスカウト達にも刺激になり、指導者とスカウトのためになる合同集会になったと思います。



大輪になろう



地図の発表



中野通りが繋がった



変な商人が物を売りに来たぞ



ロープの船で川を渡れ



林の中にはどんな動物がいた？



優秀組おめでとう「うおー」



お別れの仲良しの輪「いつも元気」

ローバー100kmハイクに挑戦！

11月19日（土）～20日（日）、100kmの道程を24時間以内に歩く「第50回ローバースカウト100kmハイク」が、中央大学多摩キャンパスを出発点とし、港区芝公園の増上寺をゴールとするコースで開催されました。

今回のローバー100kmハイクは、記念となる50回目で、中野8団ローバーでボーイ隊副長補の沼上志帆さんが実行委員長を務め、事前の準備、当日の運営などを行いました。

途中のチェックポイントは、第1が調布市の布多天神社、第2は豊島区本郷学園、第3は台東区浅草寺、第4は江戸川区行船公園、第5は目黒区祐天寺、第6は大田区池上本門寺でした。

また、新青梅街道を通過するため、あすなろ地区では中野区沼袋の竹内写真館（中野5団元指導者）に通過ポイントが設けられ、参加者のIDカードに通過した目印の結束バンドを取り付ける支援を行ないました。

参加者376名のうち、規定の24時間以内にゴールインしたのは222名で、完歩率は59%でした。

あすなろ地区からは中野8団 小倉知樹、杉並9団 望月海、杉並11団 西村福太、杉並12団 亀井洋平、下川哲男、高木嘉人、杉並13団 小原翔の7名が参加し、6名が時間内にゴールインしました。

なお、男性1位は12時間57分、女性1位は14時間10分でした。



中央大学での開会式



スタート前



通過ポイントの竹内写真館前



CP3の浅草寺



ゴールの増上寺



ゴールに到着！



司会を務める杉並11団ローバー西村福太さん



実行委員長も入り記念撮影



完歩者の記録証



ローバー100kmハイク実行委員長として 中野8団ローバー隊 沼上志帆

ローバースカウトになった1年目から、100キロハイクに実行委員として関わり、3年目の第50回の100キロハイクにユース実行委員長として一年前に指名されました。

今回は東京連盟の実行委員募集より早く、各地区、各大学ローバーに実行委員としての参加を呼びかけ、ユーススタッフ38人で実行委員会を運営することができました。スタッフの人数が多かったおかげで、各地区のCP(チェックポイント)、PP(パスポイント)にユースの実行委員を派遣でき、新しい運営方法で実施することができました。

また、今年は「50周年記念の参加賞のデザインを自分達で考える」、「完歩記念品を作る」など、例年と違うことができて良かったです。全地区を通るといことでCP、PPの数が多くなり、決定が遅れたり、把握・管理が複雑になったり、初のPP設置ということで採めることも数多くありました。他県連、あすなろ地区への宣伝を数多くしたことで、最多の参加人数でしたが、大会中は特に大きな事故もなく終わることができました。

あすなろ地区ローバーとしての活動開始、宣伝のおかげで、今年の100キロハイクのあすなろ地区の参加者は7名、実行委員として6名と、多くのメンバーが関わってくれました。そして参加した7名中、完歩者が6名で、去年の完歩率0パーセントと比べ、大きく進歩したと思います。

今後はあすなろ地区内でも、地区ローバーの活動として、100キロハイクに向けた準備を取り入れ、より知名度のある大会にして、参加者を増やしたいと思います。今後とも100キロハイク参加者と、あすなろ地区ローバーへのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

最後にあすなろ地区PP(パスポイント)の運営を担当していただいた方、ご協力ありがとうございました。



開会式の沼上委員長挨拶



沼上委員長より上位者に賞状を授与



本部のスタッフ



大会本部のスタッフ

第50回100kmハイク大会記録

	全体	男性	女性	東連	他県連
参加者	376	261	115	329	47
完歩者	222	160	62	202	20
完歩率	59.0%	61.3%	53.9%	61.4%	42.6%

“SCOUTING”の表紙を飾りました

28年9月17日～19日、茨城・大和の森 高萩スカウトフィールドで開催された「RCJクエスト2016 in 高萩」に、あすなろ地区から中野8団ローバー隊の沼上志帆さんと、杉並3団ローバー隊の内田椋太さんが参加し、沼上志帆さんの開拓作業中の姿がボーイスカウト日本連盟発行の「SCOUTING 11月号」の表紙となりました。

本大会に参加した杉並3団ローバー隊の内田椋太さんの感想文を13ページに記載しました。



みんなであそぼう！ワクワクランド

11月13日（日）、あすなる地区では「みんなであそぼう！ワクワクランド」を中野四季の森公園で、開催し、好天に恵まれて多くの方が来場されました。

来場された親子連れの方々は、受付でポイントカードを受け取り、PRコーナーではボーイスカウト活動の紹介、ビーバーコーナーではロープを使ったゲーム、カブコーナーではペットボトルの的投げを楽しみました。

またボーイコーナーではボーイスカウトの野外活動を実感できる班サイトの見学や、重さ、距離などの計測を体験し、ベンチャーコーナーでは木々の間に渡されたモンキーブリッジに順番待ちの列もできて好評でした。

また、会場には「あすなる地区のぼり旗」が初めて掲げられて、あすなる地区のPRに活用されました。



受付コーナー

PRコーナー

ビーバーコーナー

ロープで縄跳び



カブコーナー

ペットボトルにロープ結び

的に向けてペットボトル投げ

ペットボトル釣り



ボーイコーナー立ちかまど

歩測で距離を計測

重さあて

テントでキャンプ気分



ベンチャーコーナーでモンキーブリッジを体験

地区のぼり旗がお目見え

ボーイスカウト講習会を開催

10月23日（日）「第234回 ボーイスカウト講習会」が西荻・勤労福祉会館で開催されました。

主任講師はボーイスカウト日本連盟リーダートレーナーの清水正充さんで、各団からご父兄の方々など16名が参加しました。

講習会はスカウト教育の原理と基本的な方法について理解を深めることを目的にして、室内での座講のほか、近くの桃井原っぱ広場に3つの班に分かれてハイキングし、ロープワークや観察、歩測などの野外活動の体験もあり、昼食は班ごとに芝生で楽しみました。



参加者記念撮影



主任講師からのお話



楽しくゲーム



原っぱ広場に到着



班ごとに集会



ロープワークの練習



歩幅の計測



隊集会



ハイキングに出発



ロープで円陣内の「宝物」を取出し



木と木の間の距離を計測



木陰の芝生で昼食

BSAキャンプ参加スカウトで事前班集会

10月2日（日）、阿佐谷地域区民センターでBSAパトロール・オー・リー参加スカウトの事前班集会が開催され、班名を決め、BSAキャンプの概要、注意事項の話やゲームなどを行いました。



BSAパトロール・オー・リー開催

10月14日（金）～16日（日）、東京連盟主催「BSA秋季パトロール・オー・リー」が米軍多摩レクリエーションセンターで「ポリネシアの勇士達」をテーマに開催されました。参加者は日本側244名、アメリカ側121名で、あすなろ地区はリーダー6名、スカウト10名が参加し、ポリネシアンゲームで第3位と健闘しました。



設営後、BSAと早くも交流



15日 BSAスカウトと班集会



開会式



トレイルプログラムでポリネシアンスティックゲームを展開



夕食はポットラック、あすなろ地区はカレー鍋を調理



キャンプファイア



キャンプファイア



同サイトのBSA、城北、あすなろ参加者



あすなろ地区参加スカウト

* BSAパトロール・オー・リー参加リーダーとスカウトの感想 *

あすなろのPolynesian Warriors. 参加隊幹事隊長 小原 翔

“秋季パトローリー”とは、BSA（ボーイスカウトアメリカ連盟）の極東地区に所属し、主に日本の米軍施設で生活をしているスカウトと交流をすることを目的とした東京連盟主催のイベントで、あすなろ地区の参加隊として参加してきました。

今回、あすなろ地区からは杉並3団、杉並12団、杉並13団、中野8団から合計10人のスカウトが参加しました。

スカウトは最年長が中学2年生、多くのスカウトが中学1年生、小学6年生で、指導者は6人中5人が20代のフレッシュなメンバーでの参加になりました。

スカウトは全員が初めての参加で、事前集会で他団スカウトとの顔合わせは一度だけのため、お互いの会話も少ないままで、アメリカのスカウトとの交流の前に、メンバーが2泊3日を過ごせるか気がかりでしたが、スカウトはすぐに仲良くなり、早速同じメンバーでのキャンプを企画しているほどでした。

それはアメリカのスカウトも同じで、初対面の日本のスカウトとは打ち解けられない様子でしたが、同じ班になり、同じ飯を食べ、協力してゲームに挑戦していくうち、あっという間に仲良くなっていました。

これは私が世界ジャンボリーで見た風景と全く同じものです。学校で英語の授業を受けているだけでは分からない…、日本の友達と遊んでいるだけでは感じられない…、慣れた環境では味わえない…、そんな“色々”を今回参加のスカウトも五感で受け取ったと思います。

このような機会をより多くのスカウトに届けてあげることが、ボーイスカウトの指導者としての使命だと改めて感じた時間でした。



気持ちを一つにして優勝！

杉並3団 ボーイ隊

桑原 博暉

言葉が通じない。それはコミュニケーションが取れないことだと思っていた。自分の英語力に自信がなかったし、突然アメリカ圏に行って2泊3日を過ごすということは、自分が希望したとはいえ、試練だと考えていた。

日米混成の班で仲間になったのは、とても同い年とは思えないスカウト達だった。最初はお互いなかなか声もかけにくく、アメリカ組、日本組とで離れて行動していたが、チェックポイントを通過していく度に、次第に打ち解けあい、一つの班になれた。なんと僕たちの班は賞を獲得できたのだ！

今回の体験で、僕は言葉が通じなくても、ともに笑い、ともに楽しみさえすれば仲間になれるということを学んだ。このキャンプは、忘れられない経験になった。ありがとうsushi班。



盛り上がったキャンプファイア

杉並3団 ボーイ隊

松尾 奏流

BSAの参加は、とても緊張しました。外国の人との交流は初めての経験だったからです。

そして迎えた当日、集合は夜だったので、テントを立てるくらいでアメリカ人との交流が少なく、あまり英語を試す機会がありませんでした。

2日目は、米国スカウトとの交流があるプログラムで、米国スカウトと同じ班で一緒に行動したので、仲が深まりました。夜のキャンプファイアーでは皆で盛り上がり、いい思い出になりました。

3日目の撤営は寂しい気持ちを感じながら、共に過ごしたサイトにも感謝して帰ることができました。

僕はこの3日間で、国が違い言葉が違っても、人との結びつきが深まることを経験しました。

交流した米国の人たちが、日本の印象を良く思ってくれたら嬉しいです。楽しかったので、是非もう一度行きたいです。



勉強した英語で会話

BSAのキャンプで一番苦労したのは、英語です。前の晩に練習した簡単な英会話や、学校で習った英語の知識で会話をしました。

学校で勉強した英語が、意外と実用的で、そしてちゃんと通じました。あとは勢いで話した英語も通じたので、嬉しかったです。

杉並3団 ボーイ隊 城 慎太郎



ゲームで打ち解けました

僕は、あすなる隊の一員としてBSAに参加しました。

3日間のうち最も印象に残っているのは、2日目のポイント制のゲームです。

なぜなら、あまりなじめていなかったアメリカの隊員と、ゲームを楽しみながら打ち解けることができたからです。

僕自身、英語が得意ではないので不安でしたが、なんとか会話することができたのでよかったです。

3日間さわやかな秋晴れのもと、とてもいい経験ができたので、またいつか参加したいと思います。

杉並3団 ボーイ隊 松窪 遼史



日米の国旗を掲揚して開会式

パトロールオーリーとは？

パトロールオーリー (Patrol-o-ree) は、英語で“Patrol”は班、“-o-ree”はスカウトの大会を表すのに多く使われているため、“Patrol-o-ree”の大会名となっており、「班大会」という意味が近いと言えます。

“-o-ree”はスカウトの大会を表すのに多く使われており、“-o-ree”が使われているのは、諸説はありますが、

“Jamboree”はJamboな大会で「ジャンボリー」、

“Camp-o-ree”は、県大会などで使われている「キャンボリー」、

“Agoon-o-ree”は、「アグーナリー」等があります。

すぎなみ舞祭に地区の店をオープン！

10月16日（日）、蚕糸の森公園で、子ども達のダンスチームが舞い踊る「すぎなみ舞祭」が開催されました。

あすなろ地区各団では毎年、会場内のテントの設営・撤営や会場内の警備などに、多くの方々が奉仕していますが、本年はあすなろ地区として初めて出店し、ボーイスカウトの活動や地区の各団を紹介するコーナーを設け、各団のビーバー隊、カブ隊のパフレットを袋に入れて用意し、全部の資料が配布されました。

テント内の「キャンプ必要品の釣り」の無料ゲームコーナーでは、懐中電灯、寝袋、食器など、キャンプの必需品を釣り竿で釣ってもらい、参加賞として釣った餌を差し上げました。

また、あすなろ地区では、すぎなみ舞祭の協賛者として、公式ガイドブックに地区の活動状況の写真、見学や体験入隊の問合せ先を記した広告を掲載しました。



善福寺川公園で一日アウトドア体験会 杉並8団

杉並8団は10月10日（月）「親子で遊ぼう、一日アウトドア体験会」を善福寺川緑地公園の西田橋周辺で開催しました。

親子連れの参加者は、公園の木立の間に設けられた「バブロケット」、「的入れ」、「暗夜行路」、「ダンス」の各ポイントを順番に回り、最後の「おやつ」のコーナーでは、お菓子と飲み物が用意されました。

ポイントの「バブロケット」は、小さく砕いた入浴剤のバブをフィルムケースに入れて水を3分の1くらい入れ、ふたをしっかり閉め、ふたを下にして置くと、1分程度でポンと音がして高く飛び上がります。担当のリーダーは、ロープで仕切った「発射場」を設けて、顔を近づけたり、人に向けないように安全に注意していました。参加した子供たちは「ロケット」の飛び上がるのをワクワクしながら見つめて、飛び上がると大きな歓声があがりました。

また、テーブル席ではリーダーが参加された親子に活動内容を説明したり、質問にもていねいに応じていました。



スカウトの日 各団で奉仕活動

毎年9月の第3月曜日は「スカウトの日」として、各団で地域社会への奉仕活動が展開されています。清掃活動などを行ない、日本連盟に報告したあすなる地区の団の奉仕内容は、日本連盟のホームページの「スカウトの日」で閲覧することができます。



←杉並11団

紙芝居を見て
森林を守る
大切さを学び
ました

杉並6団→



杉並12団→



全国ローバースカウト会議 (RCJ) に参加して

杉並3団ローバー隊 内田 椋太

9月17日～19日、茨城県高萩市の高萩スカウトフィールドで開催された「RCJクエスト2016 in 高萩」に参加しましたので、活動の様態を報告します。

テーマは「Paddle your own canoe ～自分の道を自分で拓け」で、全国から多くのローバースカウトが参加しました。

この大会は、11年ぶりのローバームートとして開催され、まだ野営場としての機能は完全ではない高萩スカウトフィールドで、開拓作業やサイト整備も行いました。

私が今回のクエストへ参加する動機となったのは、今年からローバー隊で活動するため、ローバー隊が行う野営を経験することや、フォーラムや全国大会で知り合った人が数多く参加していることから、あすなるローバーの発展への何かを掴めると思ったからです。

「開拓作業」では橋班、掲揚塔班、ハイキングコース作成班、案内板班、階段班に分かれ、各々が担当した開拓作業を行いました。自分は階段班に参加して杭打ちや整地を行い、道からキャンプサイトへ移動しやすくしました。

プログラムの「オープニングナイト」で印象に残ったのは、参加者がダンス、ラップ、ギターや打楽器のカホンなどを使ったバンド演奏など、各々自らの特技を披露したことで、キャンプでカホンやクラリネットを使ってバンド演奏ができるとは思っていなかったため、あすなるローバーや自団のキャンプで楽器ができる人を集めて、スタンツなどで披露したら面白いと思いました。

また、今回のクエストでは、ローバー個人のスキルを高めるとともに、夜に開催された「オープニングナイト・ローバーナイト」では趣味に応じてグループを作り、そのグループで今後どういう風に交流を深めていくかについて話しあうなど、交流も盛んに行われました。

自分は「料理が好き」というグループに参加しましたが、メンバーは料理を作るのが好きだったり、食べるの専門だったり、お酒を飲む時においしいものが食べたい！という人など様々で、メンバーのほとんどが東京のスカウトだったこともあり、「今度みんなでご飯を食べに行こうよ！」など、話が盛り上がり、交流を深めることができました。

今回クエストに参加して感じたのは、ローバー年代で行う野営は一つ一つの動作がとてもスムーズで、設営、食事、撤営などにかかる時間が短いだけでなく、そのクオリティも高いことから、キャンプに必要な設備を整える作業以外に費やせる時間も長く、様々な地方のスカウトと交流したり、ローバーについての話し合いもできました。

また、今回の参加者は自分より下の年代も多く、これからRCJやローバーの世代を背負っていく彼らの活躍を知ることができたこともよかったです。



お知らせコーナー

多くの皆さまからのご支援、ご協力により、あすなる地区の指導者、スカウトの皆さまの活動内容を取りまとめた地区報「あすなる」第12号を発行することができました。

次の第13号は来年2月中の発行を予定していますが、年末、正月を迎えますので、年末、正月の行事や、スキー、スケート、凧揚げ、雪中キャンプなど、寒い時期でも元気に戸外で、室内で活動している各団、各隊の活動の特集を予定しています。

活動の様子を伝える文章を、笑顔にあふれる写真とともに、寄稿いただけるよう、よろしくお願ひします。

組織拡充委員長 広瀬治男 hiroseharuo@nifty.com